

ちづ 智頭 議会 だより



町の花
どうだんつつじ

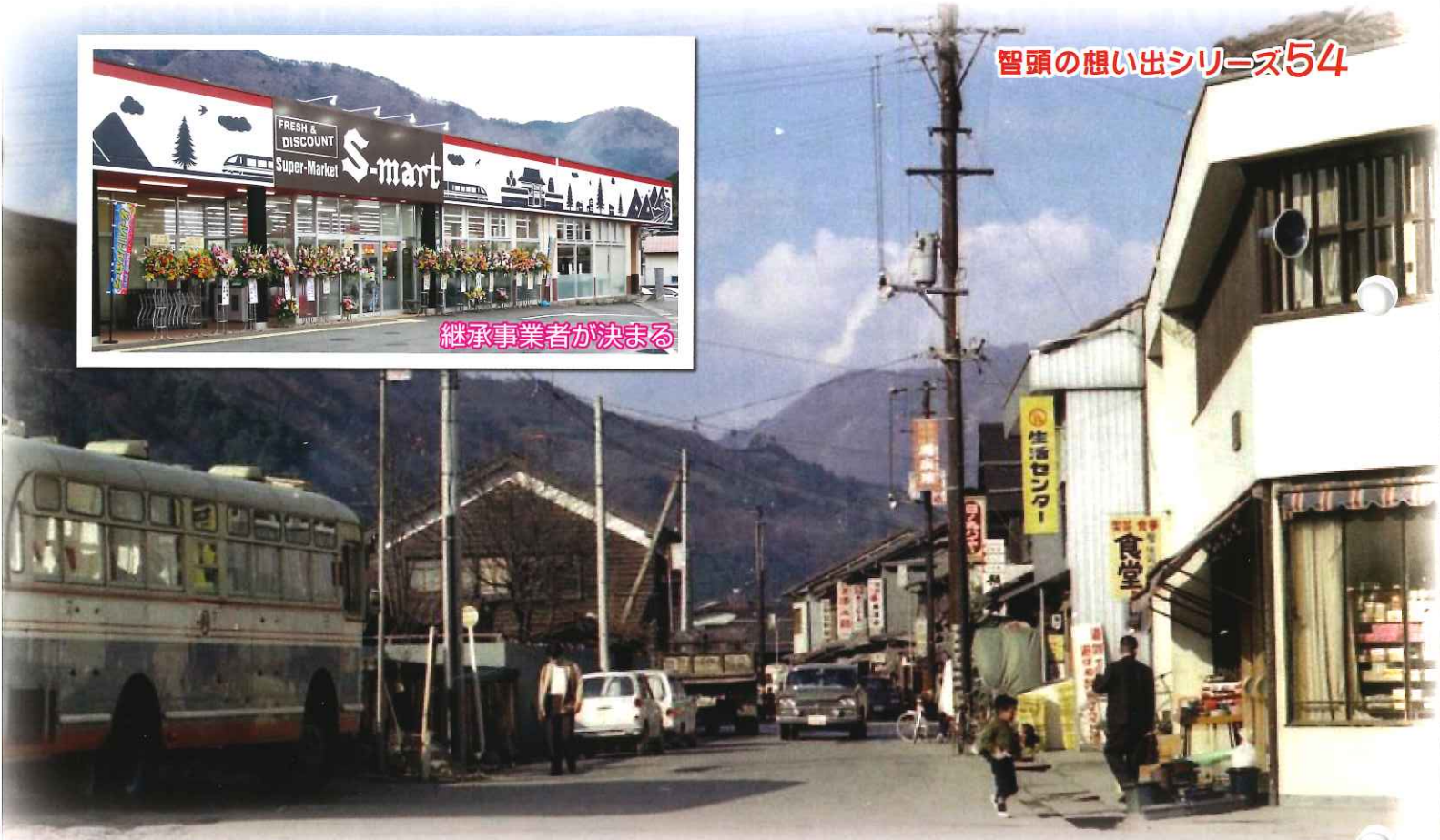
鳥取県智頭町議会

第165号

発行：令和6年1月18日



智頭の思い出シリーズ54



- ☆ 令和5年11月 **臨時議会補正予算を可決** ...P2
- ☆ 令和5年12月 **定例会** ...P3~
- ☆ **議員定数の改正について** ...P4~
- ☆ **行政評価と政策提言** ...P5~
- ☆ **6人の議員が一般質問に登壇** ...P8~
- ☆ **広報モニターさんの声** ...P11~
- ☆ **各常任委員会の報告** ...P12~
- ☆ **町民の声(智頭地区)** ...P16

昭和43年の駅前周辺写真。
右奥に見える黄色い看板の『旧智頭町農協生活センター』は、9月末に撤退した『トスク』の前身です。
町の買い物環境の激変において、町民の不安の声が多くあがり、県・町の支援を受けて、12月19日に新たなスーパーが開店しました。

地域経済活性化促進交付金



見本

委託料
211万8千円
の内訳は。

杉小判



執行部

地域通貨 第8弾「杉小判」を1人5千円分を配布

印刷代38万5千円
換金手数料173万3千円。



議員

3,436万8千円

わが家で子育て応援給付金



対象者は
何人か。



執行部

乳児を家庭で子育てしている方に対し
1カ月3万円を給付

見込みを含めて
8人分の予定です。



議員

75万円

文化財整備活用費



設置をする
火災報知器は？



執行部

石谷家住宅の火災報知器故障による
備品購入

ワイヤレス型で90個
つける予定。



議員

355万9千円

12月定例会

補正予算を可決!!

第4回12月定例会(12月6日から13日)が8日間の会期で行われ、令和5年度補正予算や条例改正など12議案を審議し、原案どおり可決しました。

補正予算の主な内容は次のとおりです。

(※その他、各費目別に、燃料費、光熱水費の価格高騰に伴う所要額を措置)

補正予算額(一般会計)

1億2,363万7千円

補正予算額(特別会計・企業会計)

△947万6千円

非課税世帯給付金



住民税非課税世帯に7万円を
給付

6,401万4千円

令和5年11月 第4回 臨時議会

補正予算額

職員給与及び期末手当
ならびに勤勉手当の
改定に伴う人件費

2,525万5千円

条例の一部改正

特別職の職員の給与及び
旅費に関すること

特別職の職員給与に関する法律が一部改正されたことに伴い、町長等の特別職の職員期末手当を0.1月分引き上げるため、所要の改正を行う。

職員の給与に関すること

人事院勧告を踏まえ、給料表の改定を行うほか、期末手当ならびに勤勉手当を0.05月分引き上げるための所要の改定を行う。

【専決処分】

芦津地内の林道への落石等の緊急対応
に要する経費

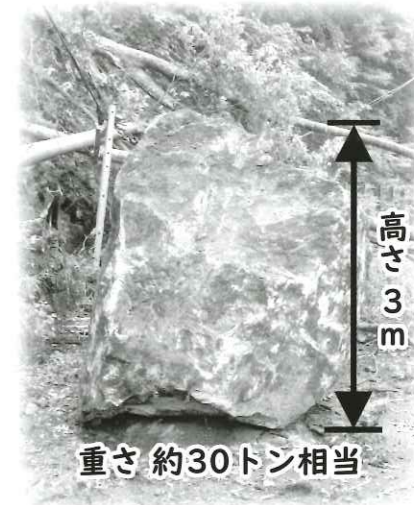
【補正内容】

- ・落石撤去
- ・林道舗装、簡易修繕
- ・倒木撤去

増額補正

230万円

以上が落石関係であり、結果160万円程度の支出となった。その他、台風7号により、道路に流出した土砂撤去作業に要する費用。



高さ3m
重さ約30トン相当

人事院勧告を踏まえた職員給与及び勤勉手当の改定に伴う人件費の調整

11月臨時議会(11月30日)で、専決処分一議案の承認を行い、令和5年人事院勧告を踏まえた職員給与及び勤勉手当の改定のほか、人件費の調整の実施に要する町長提出の補正予算7議案と条例案件2議案を可決しました。補正予算の内容は次のとおりです。

条例の改正・一部改正

- 長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について
- (長期継続契約が可能な契約を定め、契約事務の負担軽減を図る)
- 個人情報保護法施行条例の一部改正について
- (鳥取県個人情報保護審査会・鳥取県情報公開審査会統合によるもの)
- 国民健康保険税条例の一部改正について
- (産前産後の被保険者の税額を減額するもの)

人事案件

◎ 人権擁護委員の推薦について
(長谷 恭世 氏)

智頭町議会議員定数に関するアンケート結果

実施期間 R5.9.29～10.10

1. 現在の議員定数は、今後どうあるべきかお聞かせください。

	回答数	現状維持	削減
記名	26	12	14

※増員の意見はありませんでした。

2. 年齢別

40代	50代	60代	70代	80代以上	合計
2	4	9	10	1	26

※20代、30代の方からの意見はありませんでした。

3. 削減数について

2名	4名	記入無し	合計
9	4	1	14

現状維持の主な意見

- ・ 定数減は若い人が出にくくなる。なり手不足解消に逆行する。
- ・ 民意を反映するのに必要。多くの町民の意見を聞くことが大切。

定数削減の主な意見

- ・ 町人口の減少に合わせて削減すべき。今期2名減の状態でも十分機能している。
- ・ 現定数の12名で選挙を行えば定数割れも考えられる。

お詫び

富沢地区において、アンケート用紙を全戸配布した件について、議員間で協議を行いました。提出された19枚のアンケート用紙は、他地区との公平性を保つため、集計をしない事にしました。ただし、貴重な意見という考えで、個人が特定できない形で、全議員が閲覧し議論の参考にさせていただきます。富沢地区の皆様には、大変ご迷惑をおかけいたしましたことを改めてお詫びいたします。

発議第8号

智頭町議会議員の定数を定める条例の一部改正について

提案理由(抜粋)

提案者：安道泰治

議会では、令和3年度から行ってきた議会報告会において、町民から出された議員定数の見直しに関する意見を参考に、アンケートの実施や住民説明会を開催。その中で、今後の議員定数の在り方を慎重に協議、検討を進めてきた。その結果、令和7年7月29日に任期を迎える次期一般選挙から、議員定数12人を10人に改定する。

反対討論

定数削減の前に、より多くの町民の方の意見を拾うため、そして、様々な立場で議論を行うために、より議会力、議員力を高め、本町に町民の方に魅力を感じていただける議会になるよう努力していくことが一番と考える。

■ 仲井 莖・波多 恵理子 (反対2)

賛成討論

一人ひとりの負担は、確実に増え議会活動は更に多忙になるが、現在、実質10人で議会運営にあたっている現状もあり、町民から削減を求める声も多い。今後の人口動態や社会情勢などを総合的に鑑み、苦渋の判断である。

■ 谷口 翔馬・大河原 昭洋 (賛成7)

可決

賛成多数で可決

行政評価を行いました

令和4年度の決算で実施された事業の中から4事業を抽出し、事業内容を評価しました。評価結果を次年度の事業へ反映させるために実施しており、今年度で9回目となります。各議員の評価をもとに議会として集約し、行政評価結果を町へ提出しました。(下表参照)

行政評価の流れ



総務常任委員会

1. ふるさと基金費
 2. 智頭小学校教育振興事業
- 民生常任委員会
1. 地域農業振興プラン支援事業
 2. 山と暮らしの人づくり事業

智頭町議会による事務事業評価シート(常任委員会)

総務常任委員会【ふるさと基金費】

総合評価	6 / 12	理由 本町への納税額はR4年度約900万円、他の自治体への寄付額約833万円となっており、返礼品を送れば収支は確実にマイナスになっている実情である。
		附帯意見 ふるさと納税額の本来の趣旨としては、町外在住の本町出身者がふるさとを想い、地方の税収増を図ることであったが、今は返礼品競争になってしまっている。国が行っていく以上、本町としては視点をかえ、積極的に取り組む姿勢が必要である。
		今後の方向性 本町独自の魅力ある返礼品の内容の充実を図ること。県の出先機関、町の商工会との連携による、本町のPR強化も急がれる。

今後の方向性：拡充

総務常任委員会【智頭小学校教育振興事業／中学校教育振興事業】

総合評価	11 / 12	理由 IT社会やグローバル社会で活躍する人材を育成するために、ICT教育が効果的とされている。デジタル化する社会に対応するための教育としては、必須の事業である。
		附帯意見 R2年度から一人一台の端末が円滑に進められた。ICT支援員によるサポートなどにより、落ち着いて授業に取り組めるようになった。
		今後の方向性 研修会を通じた更なる教員のスキルアップを図ること。一度に多くの端末を接続しようとする動きもなくなり、調査と原因究明を急ぎ効率性の観点からもネット環境の改善が必要である。

今後の方向性：拡充



宮本 行雄

除雪対策

大雪時の除雪対策は町長／国・県、関係機関と情報を共有する

問 総合計画にもあるように、一人ひとりの人生に寄り添える町を目ざしていくうえで、近年の異常気象を考えたとき、除雪対策は重要と考える。

答 町長 大雪の対応として自助・共助として様々なことを、計画には定めているが、少子高齢化が加速する現状では、共助での取り組みがますます重要になってきている。



倒木も発生、困難な除雪作業

問 大雪時、鳥取自動車道・国道373号区間を同時通行止めという報道がされた。それに伴う住民生活及び道路利用者に与える影響

答 町長 志戸坂トンネルが完全通行止めとなるので、その間、いかなる車両も西粟倉側へ直接越境できなくなる。

しかし、大型車両を除く車両については、国道373号の規制ポイントである智頭宿交差点、ガソリンスタンドのところから侵入が許可されるので、本町の地域住民に生活面での不便をおかけすることはないと思

か。をどのように考えているのか。

答 町長 志戸坂トンネル



大河原 昭洋

関西万博

観光振興のチャンスでは町長／地域資源を生かし活性化を図る

問 大阪・関西万博が2025年4月開催される。予想される来場者は国内外から約2,820万人であり、高い経済効果も見込まれる。智頭急行や、交通機関各社との連携による、新たな周遊型観光コンテンツの造成も必要ではないか。

答 町長 本町を訪れるのは欧米やアジア圏の富裕層が多い傾向である。少々高額であっても少人数でゆつたりと、日常的な日本の暮らしを感じられるものを好む傾向となっている。体験型コンテンツ開発など、町内事業者との連携強化が重要と考えている。

問 本町のプロモーション



観光のシンボル石谷家住宅

答 町長 人の配置までは考えていないが、関西圏域に出ている智頭町出身の方々による組織を作って、少しでも智頭町を横につなげ広げるようになればという思いは持っている。



岡田 光弘

人口減少

急激な人口減少社会対応は町長／出生数増加と社会減ゼロを目ざす

問 県内自治体で、人口減少率が最上位になっている現実や弊害をどうとらえているのか。それに対し、現在の計画や戦略の見直し、組織体制や施策はどのようなことをしているか。

答 町長 人口減少は高齢化の進行とあわせて、鳥獣被害、田畑用水路の維持管理、冬季間の除雪の問題がさらに深刻化すると考え、重大な危機感を持っている。持続可能な集落運営や地域運営ができるように、地域と行政が一緒になって考えていく。今のところ、戦略や計画の見直しについては考えていない。



移住定住窓口 智頭町総合案内所

問 人口減少に対応した取

答 町長 毎年総合計画の目標値や将来像の達成度について事業検証を実施して予算編成にも反映している。関係人口については、智頭町を知っていただき、ファンになっていただき、拡大していきたい。



仲井 莖

公約実現

達成状況は町長／おおむね実現できている

問 就任当初に掲げられていた8つの公約実現に向けて、現時点での達成状況は。

答 町長 町民一人一人の人生に寄り添う施策を展開しているが、何よりも重要視するのは、町民の皆様との協働であると考えている。公約実現については、継続して取り組んでいる事業もあるところではあるが、おおむね実現できているものと認識している。

答 町長 実際、座談会という形式になるかどうかは分からないが、住民との対話というものは、やはり最重要視していきたいと思っている。

問 来年度の予算編成に向けて、取り組みは。

答 町長 まだこの年度を継続している。公約の継続に向けて、予算編成に取り組んでいる。



第7次智頭町総合計画

問 町民との意見交換会の中で、他の町では議会がや



西尾 寿樹

带状疱疹

带状疱疹ワクチンの接種助成を町長／研究・検討を行っている

問 带状疱疹とは、水ぼうそうのウイルスが神経に残り、加齢やストレスにより免疫力の低下が原因で、皮膚に痛みが起きる病気で、悪化すると強烈な痛みで夜も眠れないなど、50歳ぐらいから発症率が高い大変身近な病気である。これを踏まえ、県内の市町村の取り組みの現状と、本町はどのような検討をしているか。

答 町長 県内の市町村の取り組みについては、現在、県西部の3町が助成を行っているが、それ以外、県東部1市4町でも、来年度も助成の予定はないと聞いている。国では、定期接種化に向けての研究ワクチンであり、接種の判断基準が不

明確なため、助成に至っていない。

問 予防率が非常に高く、痛みもなくなる。不活化ワクチンを2回接種するのが有効だが、4万円以上の高額な費用が必要となる。接種をためらっておられる方のためにも、ワクチン接種の助成ができないか。

答 町長 副反応、後遺症等の健康被害があった場合、定期接種ではないために、健康被害認定、救済について町独自で判断することになるので、現在、本町では带状疱疹ワクチンの接種の助成に至っていないのが現状である。



谷口 翔馬

出生数減少対策

出生数減少の対策は町長／現在の施策を継続して努める

問 本町では年々出生数が減少傾向にあり、この問題は深刻化している状況である。出生数減少を食い止めるべく、さらなる手厚い子育て支援策を展開してはどうか。

答 町長 本町で実施している子育て施策、子育て環境について、他の市町村に引けを取らず、十分充実していると考えているので、継続して子育て支援に努めていく。



問 私も子育て世代の一人なので、現在でも手厚い町

であることは認識しているが、結果に結びついていないのも事実である。そこで、20代・30代の10名に、「子どもを産むにあたり何が不安か」という質問を行った結果、圧倒的に多かった意見は、物価高騰も相まって、「経済的な不安」ということであった。子育てしていくうえで経済不安を解消するため、国の児童手当に上乗せして付与してはどうか。

答 町長 国も、子ども未来戦略方針を閣議決定して、児童手当の拡充をしようとしている。本町は財源の確保が難しいので、ある程度、国の施策に基づき、町のやり方を考えていく。

議会広報広聴常任委員会の報告

報告者：波多恵理子委員長 副委員長：仲井 委員：全議員

議会だより164号に関する 議会広報モニターからの ご意見を紹介 (町民14名)

【町政全般・議会活動に関すること】

全体の構成(見やすさ・記事量など)に関する意見

- 『よい』9名
・ひとつのまとまりに、詳しい内容を記入してあり、記事量もちょうどよく見やすかった。
・文字間・行のスペースが詰んでいないので、高齢者でも見やすい。
『普通』4名
・一般質問・答弁、ポイントを押さえ簡潔に整理されていると思います。
『悪い』1名でした。

わかりにくい言葉など 説明が必要な内容に関する意見

- 12ページ避難所について
・台風7号での避難所とは、一時避難場所である自主避難所のことか、あるいは行政が開設する指定避難所のことか。また、行政は避難所の混雑状況をどのように情報収集しているのか。

指定避難所のことです。避難所の状況は、担当者より定時報告を受け把握しています。



※下記QRコードを読み取り「智頭町防災ハザードマップ」から、町の指定避難所を確認することができます。



【町政全般・議会活動に関すること】

特に気になったページに関する意見

- 7ページの一般質問一覧について
・QRコードが貼ってあるのが、現代的でおもしろいと思ったし、便利だと感じました。

その他に関する意見

- ・公式SNSアカウントの智頭町民の登録者割合を行政はどのように把握・分析しているのか。

フェイスブック・インスタグラム・X

のアカウント数を毎月確認しています。また、こういった投稿(ジャンル)に対して「いいね」が多くついているのかデータをとっています。

・運転免許証の自主返納者の支援制度、シニアカー導入に関して、どのような行政対応があるのか。

65歳以上で運転免許を自主返納した人に、AI乗合タクシー「のりりん」回数券の無料交付を行っています。シニアカーに対しての対応はしておりません。



・智頭病院事業会計で、多額の赤字を黒字にする方法はあるのでしょうか。智頭病院がなくなってしまうと、町民は大変困るし、赤字で町民の負担が増えるのも困るので、少しでも経営状態が改善される様にお願いたします。

「智頭病院経営強化プラン」が、3月の定例会で上程される予定です。

11月7日 調査・視察へ

押井営農組合の農業振興について(愛知県豊田市)

■場所

愛知県豊田市押井町寺ノ入4
「一般社団法人押井営農組合」

■内容

地域まるっと中間管理方式と自給家族の取り組み

■所感

一般社団法人押井営農組合より資料に基づき、事業に取り組む経緯、現状と今後の方向性について説明を受け、その後、意見交換を行った。

押井の里は、人口71人という小さな集落で、こちらでも人口減少と高齢化に加えて、担い手不足という問題が目前に迫っている。3千年も続いてきた人の営みが、この50年で里が消滅に向かい始め、農の営みを諦めた時、この集落は消滅するという危機感の中で、原点に立ち返って考えた末に、「自給」に集落存続のヒントがあるのでは。という考えが基礎となり、現在の「自給家族」が生まれたというお話を伺った。

集落が、消滅する危機感の中から「まるっと中間管理方式」を取り入れて、試

行錯誤しながら進められた事業の中で、米の自給家族「棚田オーナー」を募集され、成果をあげている事例を詳しく説明いただいた。

米の「自給家族」、押井の里の家族を増やす取り組みについても、人口70人あまりの山間地の過疎集落において、第2のふるさととして、「関係人口」は、食を通じて増やし、双方にメリットが感じられる形にして、1俵30,000円という金額でも100家族以上が契約を継続しており、完売状態である。一時のイベントではなく、米のブランド化も同時に成しながら、持続可能な仕組みにするため、経済的に成り立つ形を模索されているところがある。本町においても必要とするモデル的な取り組みであると感じた。



押井営農組合との意見交換

10月20日 11月14日 12月11日

月例委員会

所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

■主な質疑

Q 除雪の優先順位は。

A 旧バス路線を優先に、除雪体制を整えている。

Q 病院の面会時間の制限はないか。

A 面会時間については、感染を防ぐ意味合いを込めて15分くらいでお願いしている。

Q 「はたらくのりもの展」子どもたちに好評だ。今後の予定はどうか。

A 学習を通して仕事へと、つながっていきなると考える。来年度は、金土の2日間を検討している。



はたらくのりもの

Q 小型除雪機の貸与希望の対応は。

A 貸与されていない集落についても、財政と協議しながら努力している。

11月9日

智頭町商工会との意見交換会

■意見・要望など

本町の現状として、町内の商工業者数と会員数は過去10年間のデータによると、減少傾向に変化はなく、ここ数年においては事業継続・事業承継の課題を抱えている中で、事業者の高齢化に伴う廃業が顕著化しつつある状況。

そして、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、行動制限はなくなったが、いまだ経済への影響は大きく業績の復調にはかなりの時間が必要。また、円安や物価高騰、最低賃金の引上げなど事業者を取り巻く環境は非常に厳しい状況にある中で、2つの要望があげられた。

- ①物価高騰対策支援
②町内事業所の利用を促進する支援

■所感

意見交換を通して、物価高騰などにより、事業者を取り巻く環境は非常に厳しい状況であると再認識した。共に支援策を早急に対応するべきだと感じた。また智頭町商工会として、急ぎ検討している地域活性化策としてキャッシュレス事業

があり、統計によると近隣市町やインターネットの普及により町外への資金流出が約半分もあり、智頭町版電子カードを導入して町内経済循環率を現在の54%から65%に高めることで、約5億4千万円の町内の経済効果が見込めるということである。総務常任委員会としても、既に地域版電子決済の有効性の認識はあり、4年前に県外ではあるが近隣の自治体に調査視察へ行こうとしたが、コロナ禍で断念したこともあった。

現在、県内や近県でも地域電子カードの導入が進んでいる自治体も多くあり、早急に調査が必要と感じた。



商工会2階 会議室にて

10月20日 11月6日 12月8日

月例委員会

所管各課の事業進捗状況などについて、質疑を行いました。

■主な質疑

Q 危険木の事前伐採について、今後も事前伐採箇所は広げていく考えか。

A 事前伐採については、年次計画で広げて対応していきたい。

Q 次年度は、スクールバスに町民の乗も検討するべきではないか。

A 今のところ次年度に、町民を乗せることは考えていない。

Q 特定空き家の認定が、今年度8件と増加しているが、今後増えることが危惧されるが対応は。

A 危険な空き家に対して、住民から相談がきたときに、制度の説明から申請についての段取りを説明しながら、前に進めている。

Q 町民の声で、「トスク跡地の継承企業を何とか年内に」と声がたくさんあるが。

A 継承元と継承先の協議が進んでいる段階である。

調査・視察へ

防災意識の向上、子育て世帯への支援住宅

(北海道千歳市・厚真町)

11月16日 千歳市

千歳市防災学習交流センター「そなえーる」は、災害を「学ぶ・体験する・備える」をキーワードに、いろいろな災害の疑似体験をしながら、防災に関する知識や、災害が発生したときの行動を学ぶとともに、防災講座や救急講習、自主防災組織の訓練など防災学習の拠点施設である。

近年、全国各地で頻発している地震や豪雨災害などの自然災害は、忘れた頃にやってくる。常に防災という意識を持ち続けることの重要性を改めて認識し、本町においても、いつ災害が発生するとも限らないので、「身を守る」(自助・共助・公助)についても更なる防災学習の必要性がある。防災をテーマにしたイベントを通して、町民の防災意識向上をはかる必要性を感じた。

11月17日 厚真町

厚真町は、人口約4,300人で、移住定住施策として住む環境づくりで最も力を入れている町である。

これまでに分譲地を順次整備し、合計

584区画の整備が行われていた。他にも、子育て世帯を応援する賃貸住宅があり、家賃補助も充実しており、基準額56,000円/月から18歳以下の子ども1人あたり5,000円が控除される。

本町も若者支援住宅が、これまでに5棟建設された。新たに3棟建築中であるが、ほぼ同じデザインである。今のままでは、若者のニーズには合致しないのではないかと思う中で、厚真町の子育て支援住宅のように、



厚真町の子育て支援住宅

ほぼ同じデザインでも、壁の色などを変えており、本町にも取り入れて、同じ木造でも、屋根の色を変えるなどの工夫も必要に感じた。基本的な人口減少対策は「子育て支援」である事を実感した調査視察であった。

町村議会広報研修会

■研修日 令和5年9月26日(火)

■場所 東京都「日経ホール」

■参加者 広報委員6名

■内容

一部「広報担当が知っておきたい法律知識」

二部「なるほどそうか・・・」

知ってよかった読者を夢中にさせる広報誌づくりの基礎の基礎」

メディアプランナー 白木 一誠氏

三部「パッと伝わる広報誌にやってはいけないデザイン講座」

グラフィックデザイナー

平本 久美子氏

■所感

住民ニーズをしっかりと捉え、町民が読みやすい広報誌を旨とするためには、企画力・編集力・デザイン力を磨くべきであり、地域住民にとって必要かつ永続的、恒久的テーマ性のある企画を心がけ、行政姿勢や変化する住民の心情や思いを分かりやすく伝える工夫をし、デザインで企画の意図、編集に合わせて、しっかりと対応することを学んだ。

研修を受け、今後も議会だよりを通して、町民の皆さんに議会活動をお伝えし、議会を身近に感じていただけるよう研鑽を積みみたいと強く思った。

奈義町議会との交流会

■期日 令和5年10月6日(金)

■場所 智頭町総合センター

■参加者 議員10名

■内容 (1)移住定住対策について

(2)議会運営について

■感想

奈義町との議員交流会が智頭町を会場に、4年ぶりに開催された。全国でも合計特殊出生率が、一番高い奈義町での効果的な事業については、万全な施策はないが、特に効果が得られたと思われる施策は、5年間かけて81戸の低家賃住宅を整備されたこと。そして、総事業費が約17億円の総合運動公園の整備が魅力ある事業と感じた。



4年ぶりの交流会の様子

議会運営については、定数10名の奈義町議会の運営上のメリット、デメリットなどを確認することができ、幅広い意見交換会であった。

東部町議会 議長会議員研修会

■研修日 令和5年10月13日(金)

■場所 八頭町「船岡地区公民館」

■演題

「地方自治体におけるDXの取組」

■参加者 議員10名

■所感

生産年齢人口減が、地域で深刻化しているのが「デジタル」「DX」*である。全国どこでも誰でも、便利で暮らせる社会の実現に向けての取り組みが始まっている。

動き出した自治体として、本町の共助交通「のりりん」や「コネクテッドカー」が紹介されました。DXを推進していくうえで、「デジタル」と同時に、「リアル」も大事

であることから、うまく使い分けることが重要と再認識した。



県担当部局員の講演

*デジタルトランスフォーメーションの略(デジタル技術で人々の暮らしを豊かにする変革)

鳥取県町村議会議員研修会

■期日 令和5年11月22日(水)

■場所 三朝町総合文化ホール

■参加者 議員10名

■内容

「地域創生時代の地方議会―議員力の向上をめざす」

中央大学法学部、大学院法学研究科

教授 磯崎 初仁氏

「議会におけるハラスメントについて」

弁護士(元衆議院法制局)

太田 雅幸氏

愛宕公園整備

■期日 令和5年10月30日(月)

■場所 愛宕公園

■参加者 議員10名

担当課(地域整備課4名)

■内容

担当課の職員と議員で、愛宕公園の整備を4年ぶりに行った。



作業の打ち合わせ中

着物で読み聞かせボランティア

尾坂 陽子さん(智頭地区)

京都きもの学院で着付けを習い、現在は着付け師として、自宅や貸衣装店や式場へ出張し働いています。

我が家は、理容所であり、着付けの看板もあげています。看板をあげたからには、皆さんに、ひと目で分かっていただけるように、自分自身が、着物を着ることも仕事のひとつだと思い、着物を着ています。

私が高校生のころまでは、祖母は着物しか持っておらず、毎日着物を着ていました。自分もあんな風に、簡単に着物を着こなせる人になりたいと憧れていました。

智頭町地域包括支援センター主催の認知症予防「いきいき脳元気教室」のお手伝いをした時に、洋服の上から着物の羽織を着て行きました。何度か着て行くうちに教室の方から「私もそんなの持つとる」「あんたが

着とるけえ、着たくなつた」と言われ、次の時には着て来られていました。教室の皆さんに囲まれて、「かわいいがあ」「いいのだなあ」と言われ、とても気分も良くなり、改めて着物は素晴らしいと思えました。

智頭まちゼミでは「ハイカラさんが通る、みたいになろう!」と題し、袴の着付けをやり、智頭宿ハイカラ市では、着付け師として働き、自分自身も着物を着て紙芝居の係をしました。

町民である限りは、自分の払った税金がどう使われているのか知る必要があると思います、議会の傍聴に興味を持ち、何度か傍聴席へ足を運んでいます。「何が分かるものか」とお思いでしょうが、傍聴席では、静かにしていること。録音や動画撮影はしてはいけないこと。入口は、議場入口ではなく、



「ちえの森ちづ図書館」開館3周年イベントにて

傍聴席入口ということ。一般質問とは、傍聴席にいる一般の人が質問するのではなく、議員が町長に質問すること。ということが、人にも説明できるようにになりました。

智頭町百人委員会や、ちえの森ちづ図書館ボランティアなどで、着物を着ていますので、お気軽に、声をかけもらえると嬉しいです。

編集後記

昨年は、冬季の大雪や夏季の大雨など自然災害に見舞われた年となりました。また、秋から冬にかけて「カメムシ」が大発生した年でもあります。役場庁舎3階の委員会室でも同様、連日「カメムシ」と格闘した「議会だより」の編集作業となりました。

昔から、大発生の翌年は大雪になるといわれています。どうか今季は、災害のない年になりますようにと祈るばかりです。

今年1年が、町民の皆様におかれまして、明るく健康で幸せな年となりますよう祈念いたします。
(岡田)

編集 広報広聴常任委員会

委員長 波多恵理子

以下議員全員

発行責任者 議長 谷口 雅人